

令和6年度  
水戸市への政策提言・要望書

水戸商工会議所



令和6年10月16日

水戸市長  
高橋 靖 様

水戸商工会議所  
会頭 内藤 学

## 令和6年度 政策提言・要望書の提出について

日頃から、当所の事業運営につきまして格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私ども水戸商工会議所は、地域の「総合経済団体」として、商工業者の世論を代表し、商工業の振興と経済の健全な発展に寄与することを目的に、日々さまざまな事業に取り組んでいるところであり、その活動の一環として、この度、令和6年度分の「政策提言・要望書」を別紙の通り取りまとめました。

本年度は、昨年同様『世界三大都市型公園宣言を中心とした未来へのレガシーを創造するまち』を政策提言のテーマとし、それに基づく具体的な事項、ならびに市内中小企業振興につながる事項などを要望として提出させていただきます。

ご存知の通り、中小企業は日本の全企業数のうち99.7%を占め、私たちの生活に密着した商品・サービスを提供し、日本の従業者の約7割となる3,310万人の雇用を創出しています。こういった中小企業者の声が行政に届き、施策に反映されることで地域経済が活性化し、ひいては豊かで魅力ある地域につながるものと考えます。

つきましては、水戸市のさらなる魅力向上と、活力ある地域経済のために、提言・要望の実現に向けたお力添えを、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 目次

## ■政策提言

世界三大都市型公園宣言を中心とした 未来へのレガシーを創造するまち	1
--------------------------------------	---

## ■要望事項（政策提言に関わるもの）

### 1. 新たな視点で、スマートで持続可能な観光を実現するまちに向けて

- (1) 中心市街地から千波湖を回遊する自走式ロープウェイの設置・・・〔新規〕 … 2
- (2) 「M i t o r i O」エリアから  
西の谷公園を経由した跨線橋の設置・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 … 3
- (3) オールシーズンの観光誘客に向けた取り組み・・・・・・・・〔継続〕 … 4
- (4) サイクルツーリズムの推進・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 … 5

### 2. 歴史文化を知り、魅力を語り継ぐまちに向けて

- (1) 水戸学の理念「文武不岐」の聖地づくりと武道ツーリズム・・・〔継続〕 … 6
- (2) 河和田城跡などを活用した歴史教育、観光施策の推進・・・〔継続〕 … 6
- (3) 次世代キャリア教育支援事業への協力・支援継続・・・・・・・・〔継続〕 … 7

### 3. 豊かな食文化を発信し、健やかな生活を実現できるまちに向けて

- (1) 郷土愛を育むための学校給食における地産地消推進・・・・・・・・〔継続〕 … 9
- (2) 水戸市での全国納豆鑑評会継続的開催と、  
納豆のまち「水戸」のブランディング・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 … 9

## ■ 要望事項

### 4. 環境および基盤整備

- (1) 市民・観光客が集い・憩うための環境整備と魅力向上の取り組み
  - ①千波公園西の谷の活用・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……11
  - ②団体客に対応できる大型観光バス駐車場の整備など・・・・・・・・〔継続〕 ……11
  - ③「千波公園」周辺の環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……12
  - ④大塚池・成就院池周辺の環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……13
  - ⑤ロマンチックゾーン(保和苑・周辺史跡など)周辺の環境整備・〔継続〕 ……13
- (2) 魅力ある観光コンテンツの提供など
  - ①充実した観光インフォメーションセンターの設置および  
水戸駅バスターミナル利用環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……14
- (3) 安心・快適・楽しい「水戸」
  - ①水戸駅以南のシェアサイクルの拡充および  
ポタリングコースの設定・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……15
  - ②自転車通勤の促進および  
自転車・電動キックボードの利用増加に伴う安全教育の実施・〔継続〕 ……16
  - ③水戸市内の渋滞緩和・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……17
  - ④中核市としての充実・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……18

### 5. 中小企業振興策

- (1) デジタル化に向けた事業計画コンペの実施・・・・・・・・・・・・〔新規〕 ……19
- (2) 水戸市プレミアム商品券事業の継続的实施・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……19
- (3) キャッシュレス決済の普及・促進・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……20
- (4) 原油価格高騰の影響を受ける運輸事業者への支援・・・・・・・・〔継続〕 ……21
- (5) 地元企業からの物品調達促進、公共事業優先発注継続と  
公共工事の品質確保に合わせた適正価格・見積期間設定・・・・・・・・〔継続〕 ……22
- (6) 制度融資の利子補給信用保証料の補助継続・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……23

### 6. 中心市街地等地域活性化策

- (1) 中心市街地活性化
  - ①まちなかの固定資産税軽減と企業立地助成制度の改正・・・・・・・・〔継続〕 ……24
  - ②空き店舗率の改善に向けた取り組みへの支援と連携強化・・・・〔継続〕 ……24
  - ③「IBARAKI FREE Wi-Fi」の設置施設拡充および  
Wi-Fiを活用したサービスの提供・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……25
  - ④中心市街地における防犯カメラの設置、設置助成金の創設・・・・〔継続〕 ……26
- (2) 水戸市内の歴史を巡る回遊性あるルート策定と  
備前堀周辺地区の再開発による下市地区の活性化・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……26
- (3) 赤塚駅周辺の活性化・・・・・・・・・・・・・・・・〔継続〕 ……28
- (4) ロマンチックゾーン(保和苑・周辺史跡など)を活用した地域振興策〔新規〕 ……28



## 世界三大都市型公園宣言を中心とした

## 未来へのレガシーを創造するまち

水戸商工会議所では、去る令和6年2月21日から23日までの3日間、日本商工会議所との共同開催にて「全国商工会議所観光振興大会2024 in 水戸」を開催いたしました。

『「自分の道を見つける旅へ。」～刺激を求めての観光から、あなたの答えを見つける観光への転換～』を大会テーマに、水戸市の魅力や観光優位性を全国各地から参集した商工会議所関係者に発信いたしました。

同大会を踏まえて昨年度は、分科会における4つの視点の中から、「観光」・「歴史・文化」・「食」の3つの視点に基づき、過去から現在まで大切につないできた水戸市の『レガシー』を守りつつも、新しくより魅力的な『レガシー』を創造できるまちに向けて、「世界三大都市型公園宣言を中心とした未来へのレガシーを創造するまち」というテーマで提言を提出させていただきました。

ご存知の通り、偕楽園は1800年代半ばに開かれ、日本三名園のひとつとして古くからその名を馳せてきました。

市民の暮らしに寄り添う自然公園としてあるセントラルパークやハイドパーク、そして『偕楽園を中心とした千波湖周辺地域大規模公園（以下、偕楽園公園）』は、近代市民感覚の訪れとともに歩んできた、世界水準の未来的文化を象徴する公園であり、その中にも偕楽園公園は、「一張一弛の精神に基づいて生まれ、まちとともに育ち・守られてきた」、「地理的条件・ありのままの自然が生かされた公園であり、一張一弛の精神がそのまま“まち”の形となって残っている」という点において、他の二つの公園にはない特筆すべき魅力を有しており、それが今日までの180年以上にわたって水戸の街の中心で息づいているという、世界に誇れる奇跡の地であります。

水戸商工会議所では、水戸の魅力を内外に広く効果的に伝え、後世に残す方法として、「世界三大都市型公園宣言」が最も効果的であると考えます。

そのためには、水戸市と同様に世界的規模を誇るセントラルパークを擁するニューヨーク、ハイドパークを擁するロンドンと積極的な交流や意見交換の場を設けるとともに、「一張一弛」や「陰陽思想」の精神、「豊かな水辺環境」、「水戸に息づくさまざまな歴史・文化、自然、食、人々の暮らし」など、形として見えにくいもの・表現しにくいものを、新たな視点を持って積極的にPRし、現在の消費の潮流である『イミ(意味)消費』の拡大を図ることが必要です。

つきましては、令和6年度の政策提言として、昨年同様『世界三大都市型公園宣言を中心とした未来へのレガシーを創造するまち』をテーマに掲げ、

1. 新たな視点で、スマートで持続可能な観光を実現するまちに向けて（観光）
2. 歴史・文化を知り、魅力を語り継ぐまちに向けて（歴史・文化）
3. 豊かな食文化を発信し、健やかな生活を実現できるまちに向けて（食）

の3つの視点に基づく具体的な事項として、政策提言に関わる要望を提出させていただきますので、前向きな検討をお願いするとともに、「世界三大都市型公園宣言」に向けた取り組みについて、当所と一緒に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

### 1. 新たな視点で、スマートで持続可能な観光を実現するまちに向けて

〔新規要望／卸商業部会・観光サービス部会〕

#### (1) 中心市街地から千波湖を回遊する自走式ロープウェイの設置

##### ■現状や背景

日本三名園のひとつとして古くから親しまれている偕楽園と千波湖を有する偕楽園公園は、都市型公園として、水戸市の代表的な自然資産であり、年間を通じて多くの水戸市民や観光客でにぎわっている。偕楽園公園へは、水戸駅から徒歩約2km、徒歩以外でも水戸駅から中心市街地経由バスにて偕楽園公園を回遊できるが、渋滞等により移動に時間を要する。

また、偕楽園公園とM i t o r i Oエリアを結び、観光資源と中心商店街を一体化し、今後の観光需要への対応が必須の課題である。

都市型公園と中心市街地がつながることは、市民が偕楽園公園とM i t o r i Oエリアを円滑に行き来しやすくなり、回遊性の向上が図られ、都市生活と自然が融合できる。都市公園と中心市街地の一体化は、水戸の都市型公園の価値向上と生活文化の創造が可能。

中心市街地から西の谷を経由した千波湖への導線確保、回遊性向上は、自然と都市生活が融合した生活文化を築き、独自の価値を高めることができる。

結果、都市公園と中心市街地の価値向上は、観光誘客にもつながる。

##### ■問題点・課題

バスや車での移動では、時期によっては渋滞が発生しやすいため、ロープウェイを設置することにより、空中を移動するため交通渋滞の緩和につながる。また、景観を楽しみながら移動でき、さらには排気ガスを出さず環境に優しい交通手段である。

##### ■要望内容

偕楽園公園とM i t o r i Oエリア（中心市街地）が一体となり、市民および、観光客の利便性と回遊性をもたせるため、偕楽園公園と中心市街地を結び、次世代交通システムとして注目されている自走式ロープウェイの設置をお願いしたい。

都市型自走型ロープウェイ「Z i p p a r」は、費用面、土地の確保といった導入ハードルがL R Tなどより低く、すでに多くの自治体から注目を集めている。水戸が先進事例地になるため、ロープウェイの設置に向けた検討を早急をお願いしたい。

- ・設置ロープウェイ：都市型自走式ロープウェイZ i p p a r

※Z i p p a rは2025年からの運行目標で開発を進めているため、早急に実現に向けて勉強会も開催し検討していただきたい。



▲路線図（駅間約2キロメートル）



▲Z i p p e r



## ■要望事項(政策提言に関するもの)

### 【比較】

	Zippar	バス	L R T	地下鉄
利便性 定時性	高い	低い	中程度	高い
輸送能力	中	小	中	大
輸送力 定員	8~12 人/台	60~80 人/台	50~150 人/両	800~1,600 人/編成
最短運転間隔	12 秒	90 秒	90 秒	150 秒
経済性 建設費	10~20 億円/km	0 円	20~30 億円/km	200~300 億円/km
工事 期間	1 年	なし	7 年	10 年
用地確保	不要	不要	必要	必要

### ■実現による効果等

- ・観光客の誘客
- ・先進事例として水戸市をPR
- ・市民の中心市街地回遊の利便性向上
- ・観光資源の価値向上と生活文化の創造
- ・都市公園の価値向上

### 〔継続要望／卸商業部会・公園都市文化創造委員会〕

#### (2) 「M i t o r i O」エリアから西の谷公園を經由した跨線橋の設置

##### ■現状や背景

日本三名園のひとつとして古くから親しまれている偕楽園と千波湖を有する偕楽園公園は、都市型公園として、水戸市の代表的な自然資産であり、年間を通じて多くの水戸市民や観光客でにぎわっている。偕楽園と経済活動拠点の中心市街地は、歴史をたどれば、街と自然が一体となった一張一弛の精神がそのまま「まち」の形となっている水戸独自の誇れる都市型公園である。自然と街が思想とともに歴史を刻んできた価値ある公園であることを認識してもらうことが大切である。

水戸市内の経済活動拠点の中心市街地と千波湖をつなぐ重要な役割を果たすのが千波公園西の谷であり、この緑地帯を活用することは、千波公園西の谷と千波湖を結ぶ導線を確立させ、都市生活と公園をつなぐことができる。

また、水戸市民会館を核とする水戸芸術館、京成百貨店を含めた「M i t o r i O」エリアは、水戸市のにぎわい拠点であり、「M i t o r i O」と偕楽園公園の回遊性向上はますます重要な課題となる。

水戸の独自性あふれる歴史と意義を備えた都市型公園の価値を高め、都市生活と自然が融合した生活文化を創造し、築いていくことが大切である。

##### ■問題点・課題

「M i t o r i O」エリアから偕楽園公園へ向かう導線は、現在以下の3ルートが設定されているが、いずれも「M i t o r i O」エリアから大きく迂回する必要があるため、徒歩での導線としては適さないと考えられる。

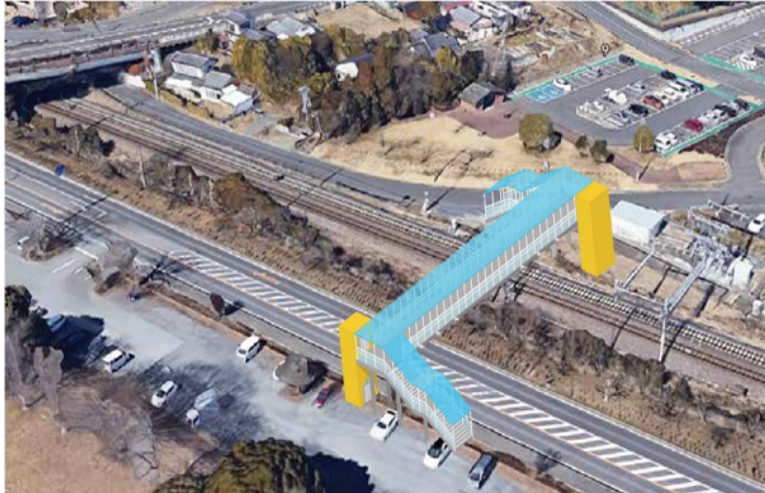
- ① 県道342号線（大工町方面から千波湖）
- ② 県道50号水戸神栖線（梅香地区から千波湖）
- ③ 偕楽橋（千波湖畔と偕楽園公園をつなぐ歩道橋）

##### ■要望内容

水戸市民会館を中心とした「M i t o r i O」エリアの整備による中心市街地と千波湖を核とした都市公園をつなぎ、一体化させるための導線を確立させるため、跨線橋を設置し、回遊性をもたせるため、以下をお願いしたい。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

- ・ 跨線橋は西の谷公園南口から千波湖中央北パーキング脇へ設置する。
- ・ 跨線橋は歩行者および自転車が通行可能な歩道橋とする。
- ・ 跨線橋はバリアフリーの観点からエレベーター付き、および自転車も通行可能なデザインが望ましい。
- ・ 千波湖中央北パーキングから桜川沿いへ通じる歩行者通路を再整備し、偕楽園公園方面および芳流橋方面へのアクセス性を向上させる。



▲ 跨線橋（歩道橋）設置イメージ



▲ 西の谷公園側(上)  
千波湖北パーキング側(下)

### ■実現による効果等

中心市街地から西の谷を経由した千波湖への導線確保、回遊性向上は、自然と都市生活が融合した生活文化を築き、独自の価値を高めることができる。

また、跨線橋設置により、シェアサイクル「みとちやり」を有効に活用することができ、アクセスしやすくなるとともに観光サービスの向上につながる。

### 〔継続要望／観光サービス部会〕

#### (3) オールシーズンの観光誘客に向けた取り組み

##### ■現状や背景

水戸の梅まつり期間中は全国各地から多くの観光客が訪れるが、それ以外のシーズンで注目を浴びる観光イベントは少ない。そのため、イベントだけに頼らない、年間を通じて観光客を呼び込むための施策が必要である。

##### ■問題点・課題

観光は地元の人々との交流によって作られる。地元の人々は観光客に貴重な情報を得ることにより充実した体験を得ることができるため、市民と協働での取り組みが望ましい。

##### ■要望内容

ア. 水戸市植物公園を活用した市民協働イベント開催

D I Yや自宅でガーデニングを楽しむ人が増えている。四季折々の花や香りを楽しむとともに、寄せ植えや薬草についての教室、庭のつくり方、ドライフラワー・リースづくりなどの教室を開催できるよう協議・検討できる場を設定いただきたい。

イ. 電動キックボードのシェアリングサービス

令和5年7月から最高速度や大きさなどの基準を満たした電動キックボードについては、自転車と同様の交通ルールが適用された。これにより、運転免許やヘルメットの着用義務(努力義務)がなくなり、歩道も走行できるようになった。電動キックボードで、まちなかや備前堀を自分のペースで自由に散策できるため観光には最適といえる。

既に、常陸太田市では駅や市役所など市内5か所で電動キックボードを貸し出し、スマートフォンの専用アプリに登録し30分100円、それ以降1分10円で利用する実証実験を行った。導入の可能性についての研究結果を提示いただきたい。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

### ウ. インフルエンサーリストの作成・活用

他県ではインフルエンサーリストを作成し、活用している。リストは分野ごとに分け、イベントの内容によってインフルエンサーを照会できるようなシステム作りをお願いしたい。

インフルエンサーリストの活用は、イベントを低価格で周知することが可能なので、水戸市だけでなく、茨城県をPRするため、早急に進めていただきたい。

### ■実現による効果等

#### ア. 水戸市植物公園を活用した市民協働イベント開催

市民と一体になって取り組むことで、パートナーシップを形成し持続的な協力関係を築くことができる。

#### イ. 電動キックボードのシェアリングサービス

疲れずより広いエリアを巡ることができ、環境にも配慮した移動手段である。

#### ウ. インフルエンサーリストの作成・活用

水戸市内・茨城県内のイベントPRを安価で進めることができ、場合によっては世界への発信も可能となる。

## 〔継続要望／アートとサイクリングで元気なまち創造委員会〕

### (4) サイクルツーリズムの推進

#### ■現状や背景

茨城県では、県内の豊富な資源を活用した「サイクルツーリズム」の推進に向けた取り組みを進めており、県内には特色の異なる4つのルートが設定されている。水戸市は、そのうち、「奥久慈里山ヒルクライムルート」と「大洗・ひたち海浜シーサイドルート」の発着地点となっており、県央、県北地域のサイクルツーリズムの拠点となるポテンシャルを有している。貴重な資源として観光振興への積極的な活用を推進していく必要がある。

また、水戸市においてもサイクルサポートステーション事業を実施されているが、市内で登録施設などが10カ所と少なく、事業自体の周知も不足している。

#### ■問題点・課題

- ・ 県央、県北地域の貴重な観光資源であるサイクルツーリズムを効率的に推進していくためには、水戸市が中心となり進めていく必要がある。
- ・ サイクリストの受け入れ態勢が不十分。サイクルサポートステーション事業の周知と登録施設を増やしていく必要がある。

#### ■要望内容

##### ア. 中長期的視点に立ったサイクルツーリズムの推進

水戸市が中心となり、中長期的な視点に立った県央・県北地域のサイクルツーリズム推進のための施策展開ならびに当所が実施している「水戸八景グルメライド」など、民間が行う取り組みへの支援。また、サイクリングイベント実施に対する補助制度などの整備。

##### イ. サイクルサポートステーション事業の周知・登録事業所の拡充

サイクルサポートステーション事業の登録施設を増やしていくために、積極的な募集と利用者への周知。

#### ■実現による効果等

- ・ 県央・県北地域で、現在活用できていない潜在的な観光資源の掘り起こしと活用につながる（ヒルクライムなどを好むサイクリストも多く、企画・ルート次第では活用されていなかった裏道や街道、交通の便の悪い施設、観光地などに観光客を誘導できる。また、外国人サイクリストが水戸を訪れることも見込まれ、インバウンド需要も想定できる）。
- ・ サイクリストの受け入れ態勢が整うことで、サイクルツーリズムの推進につながる。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

### 2. 歴史文化を知り、魅力を語り継ぐまちに向けて

〔継続要望／観光サービス部会〕

#### (1) 水戸学の理念「文武不岐」の聖地づくりと武道ツーリズム

##### ■現状や背景

世界経済フォーラムが発表した「2021年版観光魅力度ランキング」では、世界117の国や地域の中から、アメリカやスペイン、フランスなどをおさえて、日本が一位となった。

日本人の「精神性」や「価値観」が海外から高く評価されていることから、水戸市の無形文化財に指定されている北辰一刀流、新田宮流抜刀術、田谷の棒術など、水戸学の理念に通じる武道・武術を観光資源としたハード面とソフト面を整備する。

##### ■問題点・課題

本市の宿泊数は、2019年並みに戻ってきているが、そのうち外国人観光客の割合は未だ低くインバウンド需要の増加が見込める。自らの魅力や地域の特色を発信し、リピーターや宿泊者を増やすことでインバウンドに参画することができることから、さまざまなイベントや体験を開催し、地域住民とともに、にぎわいを創出する取り組みが必要である。

##### ■要望内容

ア. ソフト事業の推進

市民やインバウンドを見据えた武道教室のコンテンツの拡充や、さまざまな武道が体験・見学できる機会を設けていただき、ハード事業からソフト事業への推進を進めていただきたい。

イ. 藩校弘道館での定期的な演武と市民協働でのイベント開催など、新たな魅力の発掘

例：児童による偕楽園記暗唱、近隣高校なぎなた部の指導によるなぎなた指導  
田谷の棒術指導、石州流茶道など

ウ. 東武館の隣接地に歴史資料館や新たな武道館の整備

武道は日本独特の文化であり中学校の授業でも必修となっている。この文化を後世に伝えるため、歴史資料館・武道館の整備をお願いしたい。また、その際の優先順位を伺いたい。

##### ■実現による効果等

武道を体験できるコンテンツを増やすことでインバウンド需要に対応することが可能。

〔継続要望／西水戸ブロック協議会〕

#### (2) 河和田城跡などを活用した歴史教育、観光施策の推進

##### ■現状や背景

河和田城跡は1337年、鍛冶弾正貞国により築城されたと伝わる中世城館で、その後江戸氏、春秋氏と領主の返還を経てきた水戸の中世を語る上でも重要な遺構である。河和田城跡は天徳寺、河和田小学校など東西約510m、南北600mにおよぶ広大な面積を占めており、現在も空濠や土塁、内城など現存する遺構も多く残されているが教育面、観光面ともに活用されていない。

##### ■問題点・課題

・水戸中世の観光ボランティアが不在

水戸の中世を語るができる人材がおらず、江戸時代以前の歴史を伝えることができない。

・観光資源として活用がない

水戸の中世を語ることのできる遺構ではあるが、水戸市民のほとんど知らない資源となっている。また、市民もなかなか訪れない場所ではあるが、歴史資源は観光資源としても活用できると考えられる。また、看板等の観光案内や情報開示が少ない。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

- ・徳川氏以前の歴史発掘調査の一般市民への公開  
埋蔵文化財の発掘調査で江戸時代以前の新たな史跡が発見されており、その成果について、市立博物館の企画展などで一般市民向けに分かりやすく公開する取り組みも行われている。しかしながら、公開期間も短く成果を広く周知するには不十分である。

### ■要望内容

- ア. 観光ボランティアの育成や登録制度  
インバウンド受け入れに向け、徳川家だけでなく水戸の中世も語ることでできる観光ボランティアの育成や登録制度の整備をお願いしたい。
- イ. 歴史の発掘調査継続および一般市民への成果公開  
埋蔵文化財の発掘調査継続と、一般市民向けの発掘調査に係る情報公開を、より一層推進していただきたい。また、水戸城二の丸展示館のような、常設展示館の設置をお願いしたい。さらに、徳川氏以前の歴史について、発掘調査の成果を含め、学校教育の現場でも積極的に活用いただきたい。

### ■実現による効果等

- ・観光ボランティアの育成や登録制度  
水戸の歴史や文化、景勝地などに詳しい観光ボランティアがいることでインバウンドとの交流が生まれ、新しい観光の在り方を模索することができる。
- ・歴史の発掘調査の推進と市民への公開  
徳川氏以前の歴史を発掘整備することで、郷土の歴史教育の教材として活用でき、郷土愛を高めることにつながる。また、新たな観光資源として活用することで、歴史好きな人々の観光需要を刺激することが可能となる。

## 〔継続要望／キャリア教育創造委員会〕

### (3) 次世代キャリア教育支援事業への協力・支援継続

#### ■背景や現状

少子化による人口減少や高齢化などの構造的課題に加え、地方から都市部への若者の流出によって地元企業の人手不足は深刻化しており、地域の発展を支える人材の発掘と育成が重要である。

このため、水戸商工会議所キャリア教育創造委員会では、水戸の次世代を担う人材の育成を目的に、平成30年度から小学5年生・6年生向け職場体験事業を実施し、職業選択の視野を広げるとともに、地元への就業意欲向上を図っている。

本事業には述べ421人（6年間で4回実施）が参加しており、申し込みも年々増加しているため、引き続き当事業を実施するとともに、当委員会が運営するウェブサイトにて体験レポートなどの情報発信に取り組み、事業の実効性を高めていく。

さらに、当所では水戸市教育委員会と「職場体験活動等の連携協力に関する協定」を締結し、会員事業所のネットワークを活用して市内中学校が実施する職業体験活動の協力事業所リストを提供している。

#### ■問題点・課題

本事業は、次世代を担う子どもたちの職業選択の視野を広げることで、Uターン・地元就職希望者の増加を図っているが、実際に就職するのは数年～十数年先となる。

よって、子どもたちの成長段階に応じて地域の歴史や文化、産業などを学びながら郷土愛を育む幅広いキャリア教育支援を長期的に実施することが重要であり、併せて産学官連携による地域一体となった教育支援の継続も不可欠である。

#### ■要望内容等

令和6年度は、小学生向け職場体験事業『第5回みとっ子お仕事探検隊』の実施に加え、新たに中学生向けキャリア教育支援事業として、市内中学1年生を対象に地元企業4社を見学するバスツアーを実施した。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

---

今後とも、産学官の連携を強化し、地域一体となった次世代キャリア教育支援事業への協力・支援をお願いしたい。

また、令和2年度に開設した当事業のウェブサイトでは、『みとっ子お仕事探検隊』のダイジェスト動画公開や職場体験学習などに協力する地元企業のリストを掲載している。今後も効果的な情報提供に取り組んでいくために、児童・生徒、学校および水戸市教育委員会などにおける活用状況について各学校からフィードバックをいただき、連携を図りながら掲載内容の精査を進めたい。

### ■実現による効果等

地域の歴史や文化、産業などを学ぶとともに、地元企業を知る機会、体験する場を児童・生徒に提供することで、水戸への愛着心、郷土愛が生まれ、地元への就業意欲を高める効果が期待できる。また、小学生～中学生にかけて、切れ目のないキャリア教育支援を実施することで、さまざまな職種に触れ、職業観の形成や地域の社会的課題に対する興味関心を喚起できる。

さらには、これらの事業は市内中学校が実施する職場体験学習などに参加する上でも貴重な経験となるため、教育機関におけるキャリア教育の実効性をより高められるとともに、市と商工会議所が密に連携・協力を図ることで、学校・企業・地域が一体となった実りある教育支援事業を実施できる。

### 3. 豊かな食文化を発信し、健やかな生活を実現できるまちに向けて

〔継続要望／水戸ファースト消費創造委員会・食でブランディング委員会〕

#### (1) 郷土愛を育むための学校給食における地産地消推進

##### ■現状や背景

『水戸市第7次総合計画ーみと魁・Nextプランー（以下、同プラン）』では、水戸市の目指す将来都市像「こども育む 暮らし楽しむ みらいに躍動する 魁のまち・水戸」のもと、郷土を愛し、豊かな感性を磨くための取り組みが実施されている。

その一つとして、同プランには「水戸産品を取り入れた魅力的な学校給食の推進」として、学校給食を通じた食育の充実・地場農産物等を活用した特色ある学校給食の提供等が明記されている。

##### ■問題点・課題

- ・令和5年度学校給食における地場産物の活用状況調査（茨城県）によると、水戸市内学校給食における地場（水戸市内・茨城県内）農産物使用率は77.3%（令和4年度74.2%）と県平均の65.9%を超える高水準となっているものの、最も高い笠間市の96.3%と比べると未だ開きがある。
- ・学校給食に関する令和6年度予算は小学校が6億1,500万円、中学校が3億9,400万円、合計10億900万円（令和5年度10億500万円）となっている。物価高による食材・水道光熱費などの増大は考えられるものの、同プランを実現していくためには、水戸市の農業振興と地産地消、食育の推進を図ることを目的とした、「学校給食における地場農産物活用促進事業」と併せて、予算の拡充が必要である。また、一部の児童・生徒からは学校給食だけでは食事の量が足りないとの声もあり、給食の“量”の観点からも予算増額の検討が必要である。

##### ■要望内容

- ア. 学校給食における市内産、県内産食材の使用率90%以上を実現
- イ. 地産地消を推進するための、学校給食地場農産物活用促進事業費などの予算増額
- ウ. 食材の産地を献立表に明記

##### ■実現による効果等

学校給食に地元食材や郷土料理を多く取り入れることが、子どもたちに地域の実像や食文化、地産地消の大切さなどを伝える貴重な機会となり、郷土愛を育み・高めることにつながる。また、学校給食を通じ地域に目を向けることで、地元の特産物や産業を応援し、結果として地域経済全体の活性化につながることを期待される。

〔継続要望／食でブランディング委員会〕

#### (2) 水戸市での全国納豆鑑評会継続的開催と、納豆のまち「水戸」のブランディング

##### ■現状や背景

全国納豆鑑評会は、全国納豆協同組合連合会が主催する、納豆の製造技術改善と品質の向上を目指して行われる審査会である。日本が世界に誇る総合栄養食「納豆」の日本一を決めるコンクールとして、毎年開催されている。令和4年度は、平成27年度以来、7年ぶりに同鑑評会が水戸で開催された。

##### ■問題点・課題

- ・全国納豆協同組合連合会が主催し毎年開催している「全国納豆鑑評会」については、同連合会が開催地を決定しているとのことであるが、「納豆のまち水戸」をアピールするためには水戸市で毎年開催されることが望ましい。コンベンション的な意味合いを含めて、開催地誘致に努め、インセンティブを持たせることで、毎年水戸市で開催していることがイメージアップにつながると思われる。

## ■要望事項(政策提言に関するもの)

---

- ・水戸市では開催地誘致に対し、どのような考えを持ち活動しているのか疑問を持つ。  
また、同鑑評会が開催された際は、広く周知することが望まれるが、どのような周知をしたのかも分かりづらい。

### ■要望内容

- ア. 水戸市での全国納豆鑑評会継続的開催に向けた関係団体への働きかけ  
納豆鑑評会が毎年水戸で開催されるよう、関係団体への働きかけ。あわせて、働きかけの内容・回答などを公表いただきたい。
- イ. 納豆のまち「水戸」のブランディング  
水戸は、納豆のまちとして全国的に認知されているので、納豆消費量ではない納豆のまちとなるブランディングを進めていただきたい。

### ■実現による効果等

- ・納豆のまち・水戸としてさらなるブランディングを図ることができる。



## 4. 環境および基盤整備

### (1) 市民・観光客が集い・憩うための環境整備と魅力向上の取り組み

〔継続要望／中部ブロック協議会〕

#### ①千波公園西の谷の活用

##### ■現状や背景

千波公園西の谷は、「M i t o r i O」エリアと水戸市の重要な観光拠点である千波公園を結ぶ貴重な大動脈であり、回遊性向上がまちなかと千波公園双方の活性化に寄与すると考えられます。しかしながら、西の谷の利用者は少なく、知名度も低いのが現状であり、回遊性向上と、利用者増加につながる取り組みについての検討が必要である。

##### ■問題点・課題

千波公園西の谷の階段の修繕を行っていただいているが、ベンチなどの老朽化が目立つ。

また、まちなかと千波公園をつなぐ大動脈として重要な位置にある西の谷は、まだまだ知名度が低く、まちなかから西の谷へのアクセスポイントもわかりづらいため、回遊性も低く感じる。

##### ■要望内容等

千波湖と「M i t o r i O」エリアを結ぶ憩いの場の公園として、設備の改修・修繕をお願いしたい。また、千波公園とまちなかとの回遊性向上のため、大通りからの導線整備と誘導などをお願いするとともに、西の谷の認知度向上のため、その活用方法などについても、引き続き周知をお願いしたい。

##### ■実現による効果等

千波公園西の谷の利用促進、中心市街地の活性化

〔継続要望／観光サービス部会〕

#### ②団体客に対応できる大型観光バス駐車場の整備など

##### ■現状や背景

偕楽園の駐車場として多くの観光客が利用している千波湖西駐車場は、観梅シーズンのピーク時になると、大型バスで占有されてしまい、自家用車での駐車が困難となる。また、管理団体が異なるとはいえ、D 5 1 駐車場は無料にもかかわらず、千波湖西駐車場は有料と、利用者にとって分かりにくく不便である。

##### ■問題点・課題

偕楽園の魅力を十分に伝えるためには、表門から入園していただくための仕組み作りが必要。

##### ■要望内容

ア. 茨城県立歴史館周辺に、一時的にバスの乗降が可能なスペースを確保

偕楽園は何としても表門から入園していただくべきであり、そのためにも表門および偕楽園周辺の駐車用地の確保は必須課題である。陰陽思想を体感してもらわなければ、偕楽園の魅力が半減してしまう。日本三名園の名に恥じない魅力創出のために必要な対策といえる。

今後のインバウンド需要に対応するため、来年2月からの梅まつりに間に合うよう、早急に対応いただきたい。そのため、茨城県との連携についての進捗状況を伺いたい。

イ. 千波湖周辺の自家用車用駐車場料金の再検討

レイクサイドボウル跡地駐車場が共用開始されるので、千波湖周辺駐車場を含め、利用状況の経過を観察し、料金一律化を含めた料金の再検討をいただきたい。

## ■ 要望事項

### ■ 実現による効果等

- ・表門から入る偕楽園の魅力を観光客へ創出できる。また、インバウンド需要に期待ができる。
- ・レイクサイドボウル跡地駐車場利用の経過観察をすることによって、千波湖周辺駐車場利用状況を再確認できる。

### 〔継続要望／情報文化部会〕

### ③ 千波公園周辺の環境整備

#### ■ 現状や背景

千波公園は、観光拠点としてのさらなる魅力向上に向けたP-FIによる民間活力の導入や、レイクサイドボウル跡地の駐車場整備、そしてレセプション機能を備えた「The 迎賓館 偕楽園 別邸」が開業するなど、今後県内外から多くの集客が見込まれる。しかしながら梅まつり開催時期やイベント時などで、千波公園西駐車場などが満車になった際、近隣駐車場への案内がなく、利用者が不便を感じている場面が見受けられるため、駐車場へのスムーズな誘導とそれに伴う渋滞緩和策を講じる必要がある。

また、周辺の環境整備と併せて、中心市街地へ誘導する新たな手段や、新たな観光スタイルの検討が求められる。

#### ■ 問題点・課題

千波公園周辺の駐車場間の連携がとれておらず、満車の際に他の駐車場への案内がない状況が見受けられる。また、千波湖周辺の駐車場は多くの市民が日常的に利用しており、千波湖ふれあい広場などでイベントなどが開催される時には周辺駐車場が満車となり、渋滞が発生している。

#### ■ 要望内容等

##### ア. レイクサイドボウル跡地周辺の駐車場整備

レイクサイドボウル跡地の駐車場整備については、単体で捉えるのではなく、千波山公園少年の森駐車場や千波公園D51駐車場を一体として捉え、計画を進めていただきたい。

##### イ. 新たなモデルルートの策定

シェアサイクル・レンタサイクルを活用した千波公園とまちなかを結ぶ新たな観光スタイルを構築するため、中心市街地や千波湖など市内の主要なスポットを取り入れた周遊ルートについて、新たなモデルルートを作成するとともに、各種媒体を通じてそれらを積極的に幅広くPRしていただきたい。

##### ウ. フリーWi-Fiの整備

「千波公園」周辺環境の整備に伴い、多くのインバウンド客が見込まれることから、屋外でも利用できるフリーWi-Fiの整備を行い、おもてなし向上につなげていただきたい。

#### ■ 実現による効果等

- ・千波公園周辺駐車場間の連携強化、また分かりやすい表示や、積極的な情報発信を行うことで、利用者の利便性向上、渋滞緩和などにつながり、利用者の増加が見込まれる。
- ・年間を通じて多くの水戸市民や観光客でにぎわう千波湖周辺の駐車場整備や、屋外で利用できるフリーWi-Fiの環境整備をすることにより、利用者の満足度が向上し、その存在価値を高めることにもつながる。

**〔継続要望／西水戸ブロック協議会〕****④大塚池・成就院池周辺の環境整備****■現状や背景**

- ・大塚池は茨城百景にも選ばれた景勝地であり、冬には白鳥が飛来するなど年間を通じて多くの市民が訪れる水戸の自然遺産である。しかしながら、観光客は少なく、市民の憩いの場のみの利用となっている。
- ・成就院池は、元禄時代、この地に存在した真言宗正覚院門徒の寺院「成就院」に由来するもので、「大塚成就院池サギ草を育てる会」の尽力により、一度姿を消した準絶滅危惧種のサギソウが咲き誇る、知る人ぞ知る水戸の名所である。

**■問題点・課題**

- ・大塚池の活用方法  
市民の憩いの場として活用されているが、観光客は少ない。茨城百景としての価値を再確認し、観光資源としての活用が求められる。
- ・大塚池・成就院池の水質  
大塚池、成就院池には、水が滞留している場所があり、水環境は良い状態にあるとは言えない。周辺環境への悪影響が懸念されると同時に、来訪者を歓迎しなければならない観光資源としては問題がある。現に成就院池の流出口では、溜まった水から羽虫が湧くなどの事象が発生している。
- ・大塚池への出入り口、案内方法  
入口が分かりづらく、駐車場も少ないため、観光客を誘導できない状況にある。

**■要望内容等**

- ア．観光資源としての活用（大塚池）  
茨城百景である大塚池は、市民が多く訪れる憩いの場であるとともに、観光資源であることから、多くの観光客も訪れることのできるよう、駐車場やトイレなど、受け入れ態勢の整備を進めていただきたい。  
また、市民でも入り口が分かりづらいため、案内看板などを設置していただきたい。
- イ．国道50号南側の構造物整備（大塚池）  
観光資源として活用するため、水路敷地の構造物を整備し、水の滞留を除去し、使いやすくしていただきたい。
- ウ．水質浄化・水環境整備（大塚池・成就院池）  
民間企業などとの共同事業によるアオコ除去実験や井戸からの地下水利用、大塚池南門付近の道路雨水の引き込みなど各種施策の継続と、水環境のさらなる改善に向けた取り組みを推進していただきたい。また、サギソウを守るためにも、成就院池の水環境の改善も引き続きお願いしたい。

**■実現による効果**

駐車場整備と水環境の改善により、利便性と観光資源としての魅力が向上し、水戸市の観光振興に寄与することができる。

**〔継続要望／西部ブロック協議会〕****⑤ロマンチックゾーン（保和苑・周辺史跡など）周辺の環境整備****■現状や背景**

- ロマンチックゾーン（保和苑・周辺史跡など）は、水戸市にとって貴重な観光資源として成熟してきている。
- しかしながら、長年の懸案事項である茨城県所有の旧生涯学習センター跡地は、現在売却の方向であるが、新たな動きはみられず、地域の愛宕三世代夏祭りや末広町夏祭り、あじさい祭りの駐車場として、限られた時期・期間のみ地元住人に開放される状況にある。

## ■要望事項

### ■問題点・課題

ロマンチックゾーン（保和苑・周辺史跡など）における環境整備は、年次的、計画的に進捗するという回答をいただいているが、漠然としすぎており、不明瞭である。

- ・要望を続けている街路灯、駐車場、トイレ不足への対策が不十分。
- ・旧生涯学習センター跡地の活用が極めて一時的。
- ・通年型のイベントがなく、地域住民が関与できる機会が少ない。

### ■要望内容等

- ア. ロマンチックゾーン（保和苑・周辺史跡など）の街路灯、駐車場、トイレを増設し、人々がより足を運びやすい環境に整えていただきたい。
- イ. 旧生涯学習センター跡地の中長期的な活用ビジョンの策定を行っていただきたい。買い取り先が定まらない期間や、売却の目途が立たない場合も考慮することで、幅をもたせた運用方法を考案していただきたい。
- ウ. 周辺史跡などを活用したイベントの開催や、ロマンチックゾーンに周遊バスを設置するなど、地元が通年で介入できる企画を実施していただきたい。

### ■実現による効果

- ・環境整備による魅力向上

ロマンチックゾーン（保和苑・周辺史跡など）の環境整備が整うことで、地区の印象や魅力アップにつながる。また、周遊バスを利用することで回遊ルートの移動手段が快適化され、年配者にも手軽に楽しんでもらえるとともに、保和苑だけではなく周辺史跡などを楽しむ機会の増強につながる。

## (2) 魅力ある観光コンテンツの提供等

〔継続要望／観光サービス部会、自動車・交通部会、食でブランディング委員会〕

### ①充実した観光インフォメーションセンターの設置および

#### 水戸駅バスターミナル利用環境整備

##### ■現状や背景

水戸駅周辺では大手門や二の丸角櫓の復元、新水戸学の道が整備されるなど観光都市としての魅力向上が進んでいるところだが、今後日本の人口減少とともに国内旅行者も減少していくものと思われ、アフターコロナにおいては、地域間での観光客誘致活動競争が一層激化しているものと考えられる。

今後より多くの観光客を取り込むためには、単なる観光案内だけでないさまざまな機能を持ち合わせた大型観光案内所の設置が急務である。また、昨今、デジタル化が進み、情報の入手が容易となっているが、交通や観光案内などにおいても、ニーズを読み取って満足度の高い提案をするためには人と人とのコミュニケーションが必要不可欠。デジタル技術も活用したハイブリッド型の観光案内所(インフォメーションセンター)の設置が観光振興のために求められる状況となっている。

また、水戸駅には、北口と南口にバスターミナルがあり、系統が多く複雑となっている。また、朝夕の通勤時間帯には北口タクシー乗り場において一般車両の駐車場への入構待ちにより、車が流れない状況となっている。

##### ■問題点・課題

- ・水戸駅の観光案内所として立地は良いもののスペースが狭隘

水戸駅改札口付近にあるが、間口が狭いため収容人数が少なく梅まつりの時期などは中に入ることできない。

また、狭い環境のため、案内所内レイアウトは、整っているとはいいがたく、ゆっくりと観光情報を見ることができない。ゆっくり見ることができなければ観光案内所としての機能が十分とはいえない。

- ・観光案内所での外国人受け入れ態勢  
水戸駅は水戸の玄関口であり、最初のイメージが良くなければ安心して旅を楽しむことができない。外国人間のネットワークで水戸市に関する情報が広がらない。  
また、現在の観光案内所では、常時職員2名が常駐し、観光客などへ対応しているが、今後のインバウンド需要への対応はデジタルサイネージのみと、外国語に対応ができていない。また、インバウンド需要の増加が見込まれる中での対応が不安。
- ・水戸駅バスターミナル利用環境整備  
水戸駅は、北口と南口の両方にバスターミナルがあり、路線が多く複雑である。また、北口タクシー乗り場においては、一般車両の駐車場入構待ちにより、渋滞が発生している。

### ■要望内容

#### ア. ハード面の充実

- ・観光案内所の移転（観光客の利便性を考えた場所への移転と十分な広さの確保）  
昨年度の回答にある、案内所のレイアウト変更など需要にあわせた対応は評価できるが、今後の観光客増加への対応には疑問。水戸観光コンベンション協会などと検討をしているとの回答なので、移転に対しての今後の方針、課題などについても説明いただきたい。
- ・\*行き先検索システムの構築、タッチパネル式看板の設置など  
※県内の大きな地図画面を設置し、行きたい場所を指でタッチすると最寄りの停留所名や系統略図や時刻表、遅延状況などが表示される機能を盛り込んだシステム
- ・車両がスムーズに流れる位置へのタクシー乗り場の移動。

#### イ. ソフト面の充実

- ・日本政府観光局（JNTO）外国人観光案内所の認定「カテゴリー3」取得  
多言語での対応を可能し、言語に不安を抱える旅行者に安心感を与えることで、水戸のイメージアップを図っていただきたい。また、デジタルサイネージの活用は引き続き推進するとともに、財源確保などの課題解決に向けた調査・研究を早急に進めていただきたい。
- ・AI茨ひよりの活用  
茨城県公認VTube「茨（いばら）ひより」を活用し、「24時間対応」・「多言語対応」・「豊富な情報提供」・「待ち時間の解消」などの実現を図っていただきたい。また、茨城県の検証結果に対して、案内所の機能強化をどのように推進していくか経過を報告いただきたい。
- ・質の高いコンシェルジュの育成  
質の高いコンシェルジュを育成し、富裕層を呼びや、観光客のさらなる満足度向上を図っていただきたい。

### ■実現による効果等

- ・今後の観光客増加、インバウンド需要増加に対応が可能となる。
- ・水戸市のおもてなし向上を図ることができる。

## (3) 安心・快適・楽しい「水戸」

### 〔継続要望／南部ブロック協議会〕

#### ①水戸駅以南のシェアサイクルの拡充およびポタリングコースの設定

##### ■現状や背景

水戸市のシェアサイクル事業「みとちやり」により、観光客および水戸市民が市内を回遊しやすい仕組み作りがなされている。令和6年度4月末に、水戸駅南口や近代美術館など水戸駅以南にもサイクルステーションが設置されるとともに、中心市街地や千波

## ■要望事項

公園を巡るポタリングコースが設定され、回遊エリアの拡大・促進がなされた。

### ■問題点・課題

新たに水戸駅南口、イオンスタイル水戸下市店、県庁バスターミナル、近代美術館前、水戸市保健所にサイクルステーションが置かれたが、水戸駅より北側のエリアに比べると未だ少ないのが現状である。特に、重要な観光資源だと考えられる徳川ミュージアムや水戸市植物公園、ケーズデンキスタジアム水戸などへは回遊しにくい状況である。

また、設定されているポタリングコースも、中心市街地や千波公園(桜川沿いのルート)のみとなっており、茨城県庁などを含む水戸駅以南のコース設定がない状況である。

### ■要望内容

徳川ミュージアムや水戸市植物公園など、水戸市南側エリアへのサイクルステーションの設置拡充を引き続きお願いしたい。また、上記観光資源をつなぐ、水戸市南側エリアのポタリングコースの設定により、それぞれの施設のPRおよび回遊促進、中心市街地とのアクセスの改善を図っていただきたい。

### ■実現による効果等

水戸駅南側を含む回遊エリアの拡大は、今後水戸市民会館で開催されるさまざまな催しやアダストリアみとアリーナでのスポーツ観戦などへアクセスしやすくなることで、地域の活性化につながる。

また、徳川ミュージアム、水戸市植物公園、ケーズデンキスタジアム水戸など水戸市南部の観光資源へのサイクルステーションの設置・ポタリングコースの設定で、点と点がつながり、主に観光客が中心市街地からそれぞれの施設にアクセスしやすくなることで、利用者の増加や回遊性向上を通して、水戸市の魅力向上に資することができる。

## 〔継続要望／アートとサイクリングで元気なまち創造委員会〕

### ②自転車通勤の促進および自転車・電動キックボードの利用増加に伴う

#### 安全教育の実施

##### ■現状や背景

企業における健康経営に注目が集まり、福利厚生充実や通勤時の運動促進などの取り組みの一環として自転車通勤が推進されている。

令和5年7月には、電動キックボード(特定小型原付に該当するもの)の利用について、16歳以上という年齢制限をクリアすれば、運転免許証不要、ヘルメットの着用は努力義務となるなど、移動ツールの選択肢が増加している。

一方で現在、自転車・電動キックボードともに努力義務となっている乗車時のヘルメットの着用率は未だ低く、交通事故発生時の死亡リスクの高さなどが問題となっている。また、危険な運転をする学生が見受けられており、安全教育が不足している。

##### ■問題点・課題

- ・ヘルメットの着用率が低い

自転車乗車中の死者のほとんどがヘルメット非着用であり、ヘルメット着用率を向上させるための取り組みが必要。

- ・高校生への自転車安全教育の不足

小中学生には、自転車の安全教育を行っている状況とのことだが、朝夕の通勤・通学時間に自転車・自動車・歩行者が混在する狭隘な道路で、逆走や停車中の車の中から突然飛び出すなど、危険な走行をする高校生と遭遇したとの声が寄せられているため、継続的に交通ルールを指導する場が必要。

- ・キックボードの安全利用

事故や交通違反の対象になる可能性があるがその認識が低い。

##### ■要望内容等

ア. 自転車通勤の奨励

エコ通勤チャレンジウィークなど、水戸市内における自転車通勤の推奨を促進する取り組みを引き続きお願いしたい。また、自治体対抗の自転車通勤キャンペーンなどの実施に向けた検討もお願いしたい。

### イ. ヘルメット着用率ならびに自転車のマナー向上に向けた普及・啓発活動の強化

昨年4月から自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されたことから、着用率向上に向けた普及・啓発活動と併せ、市内の小中高生などを対象とした自転車のルールについて学ぶ安全教室や、その効果をさらに高めるための、自転車通勤・通学者対象のキャンペーンを実施していただきたい。

また、キックボードについても自転車同様に安全利用に関する取り組みを実施していただきたい。

### ■実現による効果等

交通事故の減少につながるほか、健康経営と環境負荷低減を両立できる自転車による通勤の促進は水戸の企業価値を高めるものと考えられ、水戸市のイメージ向上につながる。

また、安心・安全に自転車や電動キックボードを利用できる環境を整えることで、観光客や地域住民がそれらを積極的に利用しまちなかを回遊することで、車では発見できないまちなかの魅力を発見しやすくなり、観光振興や地域の活性化に資することも期待される。

## 〔継続要望／自動車・交通部会〕

### ③水戸市内の渋滞緩和

#### ■現状や背景

朝夕の通勤時間帯などを中心に、市内各所で長い渋滞が発生している。また、泉町1丁目・M i t o r i O周辺でイベント開催時に渋滞が発生している。

#### ■問題点・課題

交差点の渋滞は、速度低下や時間の浪費によって経済的損失をもたらすだけでなく、二酸化炭素排出量の増加や物流コストの上昇など、さまざまな問題を引き起こしていることから、効果的な渋滞対策の必要性がある。

#### ■要望内容等

水戸市内で日常的に渋滞が発生している箇所について、その深刻度・緊急性などを考慮した上で、「国土交通省常陸国道河川事務所」をはじめとする関係機関との連携強化を図りながら、早急な渋滞改善策を講じていただきたい。

#### ■実現による効果等

- ・目的地へのスムーズな移動が可能となり、関連する諸問題解決につながる。

<参考>

交差点の形状や信号の制御、道路の幅員や構造などにも問題がある場合は、ハード面での対策として交差点改良などの道路施設の改善が必要になることがあるが、東京都八王子市の上川橋交差点では、都が実施する渋滞対策事業「\*交差点すいすいプラン」により、改良前、15分掛かっていた通過時間が大幅に短縮され、経済的な効果は、年間3.5億円になったというデータがある。

※交差点すいすいプラン

道路幅員の狭い交差点で、右折待ち車両による渋滞を緩和するために、交差点近くの用地を取得し、右折車線や歩道などを整備することで、通過時間の短縮や歩行者の安全確保などの効果が期待されるもの。

## ■ 要望事項

---

### 〔継続要望／建設部会〕

#### ④ 中核市としての充実

##### ■ 現状や背景

水戸市が活力ある発展を続けるには、歴史と伝統・芸術・文化・豊かな自然など、水戸ならではの個性・特色を育み、まちの魅力を高めるとともに、地域の実情に合ったより質の高い市民サービスの迅速かつ効率的な提供を行いながら、自主性・自立性の強化に努めることが必要と考える。

##### ■ 問題点・課題

###### ・ 中核市としての機能活用

中核市移行の概要にあるように、市民が誇れる住みやすいまちづくり、特色を生かした自立したまちづくり、選ばれる魅力的なまちづくりの推進。

###### ・ アンケート調査

アンケート調査結果を取り込んだ水戸市第7次総合計画の推進。また、水戸市独自の特色ある施策の展開。

##### ■ 要望内容

###### ア. 市民の意見を集約する意見交換会の開催

昨年提出した要望に対して、「意見交換会を実施してまいりたい」との回答をいただいております。早急な開催をお願いしたい。また、実施方法や実施時期を早急に提示いただきたい。

###### イ. アンケート調査結果の活用

昨年度提出した要望に対して、「1万人アンケート調査結果を水戸市第7次総合計画に取り込んだ」とのことであり、計画実施を強く推進いただき、また、その結果についても毎年ご報告いただきたい。さらに、結果検証を行いながら、中核市としてのさらなる充実に向けて、官民一体となった取り組みを推進していただきたい。

##### ■ 実現による効果等

水戸市独自の特色ある施策を展開できる。



## 5. 中小企業振興策

〔新規要望／社会サービス部会〕

### (1) デジタル化に向けた事業計画コンペの実施

#### ■背景や現状

少子高齢化による労働人口の減少で中小企業の人手不足が深刻化するとともに、アフターコロナにおける働き方（テレワークやワーケーションなど勤務形態の多様化）を求める人々の増加により、企業活動におけるデジタル化・IT導入の必要性は年々高まっている。

一方、令和6年2月に水戸市デジタルイノベーション課で策定された「水戸市デジタルまちづくりビジョン」ではアンケート調査の結果、「デジタル化に関して社内で抵抗感がある」や「導入したいが予算がない」などがデジタル化に向けた課題として捉えている企業が多いことが示されている。

#### ■問題点・課題

世界的な物価高騰に起因するさまざまなコストの増加やゼロゼロ融資などの返済、今後予想される長期金利上昇などにより、デジタル化・IT導入といった先行投資を行うことができる中小企業および小規模事業者は少ない。また、デジタル化に抵抗感や苦手意識があり、デジタル化を前向きに検討していない中小企業・小規模事業者も一定数存在しており、地域経済を発展・維持していくためには、そういった市内企業の意識改革を図る必要があると考える。

国が実施する「IT導入補助金」は、クラウドシステムを導入することが前提として設計されていることや、賃上げが申請要件であることなど、中小企業や小規模事業者にとっては申請のハードルが高い側面がある。

#### ■要望内容等

事業者がデジタル化にかかる事業計画書を策定し、水戸市の審査を経て優れた事業計画を策定した事業所にはデジタル化にかかる取り組みに対して、対象経費の一部を補助するとともに、入賞者の計画内容を広く公表（市報やホームページなど）していただきたい。

また、デジタル化にかかる事業計画実施後、補助金を受給した事業者が実績報告を市に提出し、効果測定を行うなどして、実績が目標値に達していない場合などには指導していくような仕組みの構築を希望したい。

さらに、申請要件を国の「IT導入補助金」よりも緩和し、中小企業・小規模事業者が申請しやすい制度にしていただきたい。

#### ■実現による効果等

デジタル化に向けた事業計画コンペを実施し補助金を交付することで、さまざまな経済的要因でデジタル化を躊躇していた事業者が事業計画書に沿ったデジタル化を実施し、省力化や業務効率化などにより生産性を向上することが見込める。

一方、今までデジタル化に対して抵抗感があった事業者などに具体的なデジタル化の取り組み内容を示すことで、苦手意識を払拭し、意識改革を図りデジタル化に取り組みやすい土壌を構築することができると思う。

〔継続要望／小売商業部会・水戸ファースト消費創造委員会〕

### (2) 水戸市プレミアム商品券事業の継続的实施

#### ■現状や背景

令和4年度に実施した「みとちゃんのプレミアム商品券」事業では、子育て支援枠・一般販売枠を合わせ計50,000セットの販売に対し、約94,000セットの申し込みがあるなど大変好評であり、新型コロナウイルス感染拡大による経済消費の落ち込みに対し一定の効果があったと思われる。

## ■要望事項

足元では原油高や円安の影響による物価高などにより、さらなる消費の落ち込みが懸念されるところである。

### ■問題点・課題

- ・新型コロナウイルスの影響が収まり人々の活動再開が期待される反面、物価高による消費落ち込みが懸念されるため、継続的な経済刺激策の実施が必要。
- ・小売業界、消費者ともに実施を望む声がある一方、事業実施のためには、国の交付金決定が前提となるため、安定した事業継続に課題がある。
- ・物価高による値上げラッシュにより、消費者（特に支出の多い子育て世帯）では厳しい状態が続いている。

### ■要望内容

ア. 事業の安定実施に向けた独自財源確保

国の交付金の有無に拘わらず、安定的かつ継続的な事業実施を行えるよう、水戸市独自の財源を確保していただきたい。

イ. 子育て支援を重点対象としたプレミアム商品券の発行

最も経済的負担が大きい高校3年生までの子どもがいる世帯に対する重点的な支援として、子育て支援枠を拡充（対象者拡大…高校3年生まで・セット数の拡大）するほか、子育てやファミリー向けに商品・サービスを提供する店舗とタイアップしたキャンペーン・イベントの実施なども検討いただきたい。

ウ. デジタル地域通貨での商品券発行

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてデジタル地域通貨でのプレミアム商品券の検討をいただきたい。

### ■実現による効果等

国の交付金の可否に拘わらず事業実施が可能となり、小売事業者、消費者双方に安定的かつ継続的な支援を実施することができる。

また、子育て支援枠の拡充により、水戸市の子育て支援策の充実につながる。

## 〔継続要望／情報文化部会〕

### （3）キャッシュレス決済の普及・促進

#### ■現状や背景

経済産業省では、2025年までにキャッシュレス決済比率を4割程度にするという政府目標の達成に取り組んでいる。国内の2023年のキャッシュレス決済比率は39.3%と堅調に推移しているものの、水戸市内の中小企業では、導入業者プランの選択の煩雑さ・導入後の手数料・機器導入にも費用がかさむことから、導入に前向きではない店舗が多いのが現状である。

#### ■問題点・課題

消費者の生活行動におけるデジタルサービスが定着化しつつある中で、日本クレジットカード協会が発表した「キャッシュレス社会に向けた調査報告書」によると「キャッシュレス決済を導入していない店舗を避けることがありますか」という質問に対し、一般消費者の32%、家計簿アプリ利用者においては54%が、「避けることがある」と回答している。キャッシュレス決済未導入により、競合店舗への顧客流出につながる恐れがあるほか、インバウンド需要を逃す可能性も高まる。

#### ■要望内容

ア. 店舗へのキャッシュレス決済の導入推進

キャッシュレス決済の導入は、レジ業務だけでなく、売上管理・在庫管理など、店舗運営の効率化を図るとともに、集約したデータを販売戦略に役立てられるというメリットもあり、機会損失を防ぎ、販売機会の拡大につながることを期待される。

一方で、端末設置などの初期費用や決済手数料などのランニングコストが発生するため、コスト面でのハードルを下げるために費用助成施策と各店舗の実情に合わせた導入

支援をお願いしたい。また、あわせて、導入支援計画の作成をお願いしたい。

#### イ．消費者へのキャッシュレス決済の利用促進策

キャッシュレス決済利用の不安解消に資するサービスや、不正利用対策への取り組みの訴求を通し、キャッシュレス決済サービスの利点を広く周知することで、キャッシュレス決済のさらなる普及促進に取り組んでいただきたい。

#### ■実現による効果等

企業の人手不足への対応、業務効率化が図れるほか、インバウンド消費の取り込みが期待できる。

また、スムーズかつスピーディーに会計が完了できることで、顧客満足度の向上が期待できる。

### 〔継続要望／自動車・交通部会〕

#### （４）原油価格高騰の影響を受ける運輸事業者への支援

##### ■現状や背景

ロシアのウクライナ侵攻や円安による原油価格高騰は、トラックやバスなどの運輸事業者にとって、燃料費という大きな負担となっている。全日本トラック協会によると、軽油価格が1円上昇ごとに物流業界全体で年間約167億円の負担増になると試算されており、燃料費は事業者にとっては大きなコスト増となる。また、契約条件や競争環境などにより、高騰分を運賃に転嫁することは容易ではなく、利益を圧迫により経営悪化につながる。物流は市民生活や経済活動に不可欠であることから、燃料購入費用などの一部補助と人手不足やトラックドライバーの処遇改善の早期実現が重要である。

##### ■問題点・課題

燃料価格の上昇分を契約条件や競争環境などの要因により、運賃や整備料金などに転嫁できず、利益率の低下や赤字経営に陥る事業者が多くなっている。このままでは、事業継続が困難になり、市内の交通・物流・産業の安定に悪影響をおよぼす恐れがある。

##### ■要望内容

#### ア．燃料購入費用などの一部補助継続

令和5年度は影響を受けた水戸市内事業者を対象に道路貨物運送事業者緊急支援事業を実施いただいた。現在においても、原油価格高騰などが継続しているため、社会インフラとして重要な運送運輸事業者の事業の継続、改善を図るため、水戸市内運送業などを営む事業者に対し、事業に要した燃料購入費用の一部補助などの支援をお願いしたい。

#### イ．燃料サーチャージ制（コスト増減に伴う別建て運賃）の導入

燃料価格の高騰は運送業者にとって大きな負担であり、燃料価格の増減に沿った適正な運賃・料金を受け取ることは、経営安定化やサービス向上につながる。ついては、トラック運送業などを対象に国土交通省が策定したガイドラインに基づいた燃油サーチャージ制導入について、引き続き関係機関への働きかけをお願いしたい。

##### ■実現による効果等

#### ア．燃料購入費用などの一部補助継続

社会インフラとして重要な運送運輸事業者の事業の継続、改善を図るため市内運送業などを営む事業者に対し、事業に要した燃料購入費用の一部補助を支援いただきたい。バス・タクシー、運送業などは市民の生活の足ともいえるため、燃料費上昇分の補助により、事業を継続できる可能性が高まる。

#### イ．燃料サーチャージ制（コスト増減に伴う別建て運賃）の導入

燃料価格の高騰は運送業者にとって大きな負担であり、適正な運賃・料金の収受が必要である。燃料サーチャージ制は、国土交通省が策定したガイドラインに基づいて導入されている。公正かつ透明な制度であることから、導入することで運送業者の経営安定化やサービス向上が図られる。

## ■ 要望事項

〔継続要望／工業部会・建設部会・水戸ファースト消費創造委員会〕

### (5) 地元企業からの物品調達促進、公共事業優先発注継続と 公共工事の品質確保に合わせた適正価格・見積期間設定

#### ■ 現状や背景

厳しい経済環境の中で地元企業を育成・発展させていくためには、行政機関などが積極的に市内企業からの物品調達や計画的・安定的な公共工事の発注を行うなど、投資した資金を地域内で循環させ、地域経済を活性化させていくことが重要と考える。

#### ■ 問題点・課題

- ・ 下請けを含めた地元企業への発注

指名競争入札の業者選定は、市内に本店、営業所などを有する業者の保護および育成に配慮されているが、下請け業者から県外・市外の業者に二次、三次発注されている場合が散見される。

- ・ 見積もり価格

小規模工種の数量および施工困難な場所の施工は、通常価格では不可能な場合がある。

- ・ 公共工事の品質確保

公共工事は、予算の関係上、時期によって工事発注の起伏が大きく、繁忙期には人手不足などの問題が発生する。

- ・ 人手不足、人件費・資材価格、エネルギー価格の高騰

公共工事は地域経済への波及効果が大きいものの、ロシアによるウクライナ侵攻、急激な円安など、複合的な要因で建設資材が高騰している上に確保難の状況である。

#### ■ 要望内容等

- ア. 地元企業への優先発注

引き続き地元企業への優先発注と併せ、受注事業者の下請け事業者も含めた優先的な発注および物品調達、さらに、受注事業者の偏りがなく公平性を確保した体制継続をお願いしたい。会議所会員への優先発注も含め検討いただきたいので、競争入札だけでなく随意契約の推進を図っていただきたい。

- イ. 見積価格・期間の適正化

関係法律を遵守するとともに最低制限価格制度や低入札価格調査制度の活用によるダンピング受注防止策を継続・強化をしていただくとともに、法定福利費の明確な区分・設計書への記載、適正な競争原理および適正価格・適正工事期間による発注などにより、公平性を確保した上で施工中の進捗状況の把握と管理の強化し、適正な発注をいただきたい。また、小規模工種の数量および施工困難な場所の施工は、通常価格では不可能な場合があるため、小口割増などでの単価改善をお願いしたい。

- ウ. 公共工事の品質確保

公共工事においては、予算の関係もあると思うが、年度をまたいだ工事発注も含めて、計画的に行えるような体制づくりをお願いしたい。併せて、公共工事品質確保のため、発注支援を民間会社へ外注するための体制づくりを引き続きお願いしたい。また、水戸市職員の技術力不足が散見されるので、知識力、技術力向上のため、他市町村も参考にするなどの対応をお願いしたい。品質確保には、民間会社による発注支援、水戸市職員の技術力向上が必須といえるので、対応策を検討いただき、その対応策を提示いただきたい。

- エ. 価格高騰・円安対策

価格高騰、円安による建設資材確保の遅れなどが想定されるので、社会情勢を鑑みた予算確保をお願いしたい。

〔継続要望／金融・経営支援部会〕

(6) 制度融資の利子補給・信用保証料の補助継続

■現状と背景

水戸市の制度融資である自治金融と振興資金は平成4年から利子の補給ならびに信用保証料の補助が行われており、平成29年度からは、小規模事業者経営改善資金貸付（マル経融資）についても利子の補給が実施（復活）し、市内中小企業者の融資借入時の負担軽減が図られている。

令和5年度、水戸商工会議所で斡旋・認定・推薦をした制度融資（市町村金融（自治金融・振興資金）・県制度融資・マル経融資）の合計は529件と、令和4年度の658件に対して減少傾向であるが、上記の制度融資全体に占める市町村金融の割合は55.6%で、令和4年度の47.3%から上昇しており、市内中小企業者の多くが有利な融資制度であると認識し、活用いただいている。

また、マル経融資の利用件数は低調に推移しているものの、担保・保証人を必要としない融資であるという点から、信用保証協会の保証を受けられない事業者などにとっては、資金確保のための有力な選択肢の一つであると認識されている。

■問題点・課題

不安定な国際情勢や物価高の影響など、地域産業の基盤である中小企業を取り巻く環境は依然厳しく先行きも不透明な状況である。そうした中であっても、事業の継続・発展を図るためには、新たな事業分野への進出や業態転換、海外進出などに積極的に取り組む必要があると考えられるが、今般の「マイナス金利政策」の解除に伴う、融資借入時の負担増（支払手数料増）はそれらの流れを鈍化させ、経済の停滞を招くことが懸念される。

■要望内容等

地域経済の基盤となる水戸市内中小企業の経営安定と、地域経済の活性化を図るため、令和7年度以降も自治金融・振興資金における利子の補給ならびに信用保証料の補助、小規模事業者経営改善資金貸付（マル経融資）の利子の補給継続をお願いしたい。

また、昨今の厳しい経済情勢の中にあっても、地元商工会議所などに加入し、地域貢献・地域発展に理解・協力の意思・意欲を示している事業所に対しては、利子補給率の引き上げなど、さらなる支援拡充を図っていただきたい。

■実現による効果等

不安定な国際情勢・物価高・円安・マイナス金利緩和など経営上の不安材料が多いなか、市内中小企業者の融資借入時の負担が図られることで、経営安定化の一助となる。

### 6. 中心市街地等地域活性化策

#### (1) 中心市街地活性化

〔継続要望／小売商業部会〕

##### ①まちなかの固定資産税軽減と企業立地助成制度の改正

###### ■現状や背景

水戸市中心市街地の空き店舗率は、令和5年時点で16.6%となっており、令和4年の15.7%から悪化、全国平均の13.59%を依然として上回っており、水戸市が抱える商業環境の低下が浮き彫りとなっている。

また近年は水戸駅前、泉町地区などを中心に商業ビルの取り壊しとマンション建設が進んでおり、商業地域としての機能低下が懸念されます。

茨城県内における商業地の公示地価は2年連続で上昇がみられたものの、県内地域の底上げによる結果とされており、水戸市においては相対的に地価の低迷が続いている状況である。

###### ■問題点・課題

- ・中心市街地、特に国道50号沿いの沿線は固定資産税が郊外に比べ高いことから、地価（家賃）を下げにくい状況であり、新規出店者の負担が大きい。
- ・現行の企業立地促進補助金は郊外型の大型工場、商業施設を対象とした制度のため、中心市街地における小規模の出店には対応しにくい。

###### ■要望内容等

創業者の新規出店を促進するためには、ハードルとなる家賃など固定費を削減することが効果的である。ついては、中心市街地および下市地区の商業区域における空き店舗の解消を目的とした家賃の引き下げなど、一定条件を満たした賃貸主に対しては、固定資産税の軽減を行うなどし、空き店舗への出店ハードルを引き下げる施策の実現をお願いしたい。

また現行の企業立地促進補助制度に関しては対象面積の兼ね合いから中心市街地などの既存商業区域への出店は対象となりにくいことから、同制度の見直しを行い、小規模の企業進出にも対応した制度となることをお願いしたい。

###### ■実現による効果等

中心市街地の空き店舗の解消が期待され、まちの新陳代謝が促進されることで、あらたな商業環境の整備に寄与するものと期待できる。

〔継続要望／中部ブロック協議会〕

##### ②空き店舗率の改善に向けた取り組みへの支援と連携強化

###### ■現状や背景

中心市街地の空き店舗率は、令和5年時点で16.6%と令和4年値の15.7%から悪化し、全国平均の13.59%を依然として上回っており、水戸市が抱える商業環境の低下が浮き彫りとなっている。

###### ■問題点・課題

- ・空き店舗率のさらなる改善  
「水戸まちなか空き店舗相談会」や「ワグテイル」での起業・創業セミナーなどを実施することで改善を図っているが、いまだ、まちなかでは空き店舗が目立つ。

###### ■要望内容・実現による効果等

ア. ワグテイル利用者への案内

ワグテイルの利用者が中心市街地の空き店舗に出店しやすくなるように、「水戸まちなか空き店舗相談会」への積極的な参加を呼び掛けていただくなど、第2期水

戸市中心市街地活性化基本計画で定められた新規開業数 65 件（令和 5 年～令和 9 年の合計数）を達成すべく、引き続き水戸商工会議所との連携をお願いしたい。

イ. 各種支援制度のさらなる周知

コロナ禍において企業や事業所などの地方移転に係るニーズが高まっていることから創設された、「サテライトオフィス等開設促進補助金」をはじめとする各種支援制度のさらなる周知に努めていただくとともに、制度利用の際の簡便化・即効性をお願いしたい。また、市外や県外の方への各種支援制度のPRを強化していただき、戦略的な広報を検討していただきたい。

〔継続要望／中部ブロック協議会〕

③『IBARAKI FREE Wi-Fi』の設置施設拡充およびWi-Fiを活用したサービスの提供

■現状や背景

スマートフォンなどの情報端末が普及し、どこでも高速なインターネットに接続できるWi-Fiは、必要不可欠な情報インフラとなっており、整備されているエリアには、多くの人の滞留が期待できる。

また、Wi-Fiは、災害時の通信手段にも活用できるほか、人流・行動のビッグデータを活用し、まちづくりに生かす取り組みにもつなげることができる。

■問題点・課題

・Wi-Fi設備について

DX化は店舗にとっても必要であり国も推奨しているところである。県が導入している『IBARAKI FREE Wi-Fi』は現在水戸市内約 100 か所（令和 6 年 4 月末時点）と、未だ不足しているのが現状である。特にまちなかの民間事業所への普及は、にぎわい創出につながるだけでなく、災害などで電話回線が利用できなくなった場合でもインターネットにアクセスでき、連絡・情報収集のツールとして利用できるなどの利点がある。昨今はテレワークの普及などもありWi-Fi設備はますます重要になってきており、ICTインフラの整備が急がれる。

■要望内容・実現による効果等

ア. Wi-Fi 設置に対する助成制度の創設および運用面でのサポート

現在、水戸市民センターなど、水戸市内 100 か所で運用されている『IBARAKI FREE Wi-Fi』について、茨城県を始めとする関係機関との連携を密にし、設置施設のさらなる拡充を図っていただきたい。

また、Wi-Fi 環境の整備に当たり、費用面で不安を抱える事業者も多いことから、設置に対する助成制度の創設、また、その後の運用面でのサポート体制などの整備も合わせて検討いただきたい。

イ. Wi-Fi を活用したサービスの提供

インバウンドによる外国人観光客が増加しており、日本人観光客へのサービス向上のためにもWi-Fiを活用したクーポン券の発券や地域通貨の利用、スタンプラリーなどのイベントを実施し、商業振興に寄与するような仕組みづくりを、引き続き検討いただきたい。

■実現による効果等

- ・水戸市民会館が開館し、来街者のさらなる増加が予想されるなか、特にまちなかの民間事業所において設置施設が増えることは、まちなかでの滞留時間が増加し、人流増加にもつながる。
- ・事業所独自でフリーWi-Fiを設置している場合もあるが、来街者にとっては、フリーWi-Fiの設置間隔が広いと接続が途切れるほか、対象施設を初めて訪れた場合はその都度接続手続き（パスワード入力など）が必要になるなど不便な点も多く、『IBARAKI FREE Wi-Fi』の設置施設が拡充されることは最も効率的で効果が高いと考えられる。

## ■要望事項

- ・Wi-Fi 環境の整備促進は、インバウンドのさらなる増加だけでなく、防災拠点となる公共施設などの災害時における通信手段の確保にも大きく貢献できる。
- ・国内外から訪れる観光客の利便性向上および避難場所等の防災拠点に耐災害性の高いWi-Fiを整備することで、地域の安心・安全な環境を構築することができる。

### 〔継続要望／小売商業部会・卸商業部会・情報文化部会〕

#### ④中心市街地における防犯カメラの設置、設置助成金の創設

##### ■現状や背景

現在、水戸駅や大工町の繁華街などに約70台、水戸市民センターや学校をはじめとする公共施設を含め約800台の防犯カメラが設置されており、安心安全なまちづくりは、誘客の促進、商業の振興につながっている。

水戸市第7次総合計画ーみと魅・Nextプランーでも、「誰もが生き生きと暮らせる『安心』できるまちをつくる」が、都市づくりの基本理念のひとつに掲げられている。

##### ■問題点・課題

中心市街地の商店街では、夜間に落書きをされたり、窓ガラスを壊されたりするなどの被害が発生しており、防犯カメラの設置要望が出されている。

また、新型コロナウイルスの終息に伴う人流の増加により、夜間のいたずらなどの増加が懸念される。

昨今、劇場型犯罪や凶悪な強盗事件が全国的に多発しているため、市街地の防犯カメラの増設は犯罪の抑止・防止に有効だと考えられる。

##### ■要望内容等

ア. 市街地における防犯カメラの継続的な増設

防犯カメラの設置については、昨今増加する凶悪犯罪を抑制する効果があり、安心・安全な街づくりの観点からも市街地における設置数の増加を図っていただきたい。

イ. 民間企業への防犯カメラ設置補助制度創設

民間企業への防犯カメラ設置について、より多くの企業で設置が進むよう、設置に関する助成金の創設をお願いしたい。

ウ. 防犯カメラ増設による犯罪抑止力検証データの公表

防犯カメラ増設による犯罪抑止力の検証データを公表し、民間主体による設置の推進にもつなげていただきたい。

##### ■実現による効果等

- ・安心・安全な街づくりに寄与し、にぎわいの創出につながることを期待できる。

### 〔継続要望／東部ブロック協議会〕

#### (2) 水戸市内の歴史を巡る回遊性あるルート策定と 備前堀周辺地区の再開発による下市地区の活性化

##### ■現状や背景

令和5年度の水戸市民会館開業後は、水戸駅前三の丸地区第一種市街地再開発事業の再開のほか、新たな複合施設整備計画として、水戸市泉町2丁目北地区再開発事業準備組合が市議会へ陳情するなど水戸駅から北側（上市）方面は都市整備が進み、ソフト的な面を充実させる時期に来ている。また、弘道館、三の丸周辺も歴史ある町の顔としてのまちづくりも進み、水戸駅・三の丸周辺に足を運ぶ機会が増え、観光振興の推進・にぎわい創出が進んでいる。

一方で、水戸市内には歴史的資源が数多く点在しており、それらを回る歴史散策などのルートとなると、現在は弘道館・偕楽園など上市ルートが中心であり、その上、回遊性が高いとは言えない。そのため歴史的資源を巡る機会を逃している状況である。



水戸市全体を俯瞰的に見ると、上市（特に中心市街地）だけでなく、下市の観光・地域資源の活用についての取り組みも重要であると考えます。

かつて下市は水戸街道の起点として栄え、水戸城下の経済を支えてきたが、戦後は、経済の中心が上市へと移り、近年では郊外の大型店舗へと需要が変容し、中心市街地の空洞化は著しく進行している。

上市地区はまちづくりの整備・観光振興策が進められる一方で、下市地区はその流れから少し取り残された感があり、まちづくり・地域活性化の点からも、行政の整備・投資・再開発は上市地区が優先されているように思われる。

**■問題点・課題**

- ・水戸市内の歴史を巡る回遊性のある散策ルートが少なく、千波湖・偕楽園を起点としたルートが中心。特に下市地区と上市地区への回遊性の高いルート（コース）が無いに等しい
- ・レンタサイクルやシェアサイクルなども活用した回遊ルートも策定されているが、自転車利用に対する整備が不足している。
- ・回遊性を高めるには、下市はハード面もソフト面も弱さが非常に目立つ（訪れる人たちへの利便性・安全性・快適性が非常に低い）。

**■要望内容等**

ア. 歴史ある資源を活用した回遊性の高いルート策定と周知

散策および自転車（ロードバイク、レンタルサイクル、シェアサイクル「みとちやり」など）を活用した歴史景観を巡る回遊性の高いルートなどをいくつか策定していただきたい。ルートは、散策を楽しむ市民やインバウンド・一人観光客などさまざまな層を想定し、上市地区・下市地区をつなげる内容にしていきたい。

自転車利用者が駐輪する際に配慮するために、新たに店舗などがサイクルラックなどを設置する場合の支援や下市地区のサイクルステーションの増設をご検討いただきたい。

ルート策定後は、SNSなどを積極的に活用し周知していただきたい。特に利用した方による画像などを活用した周知であれば、利用者の声としても認知され、PRにもつながる。

イ. 下市地区（備前堀周辺）の再開発による一体的な整備

第7次総合計画では備前堀周辺地区は地域活動拠点と魅力発信交流拠点が混在した地域であり、「楽しめる交流拠点づくり」として備前堀周辺・はみんぐぱーく・みとなどもあげられている。

そのため、一部分の整備ではなく、歴史資源を背景としたコンセプトテーマにするなど景観を揃え、駐車場整備も含めた一体的な再開発をご検討いただきたい。そうすることで、観光機能も備えられ、地域一帯が交流拠点として魅力が高まる。

また、地域住民の暮らしやすさや個人のチャレンジを支えるような施設を増やすための再整備を行うことで、商業の活性化と地域住民の生活基盤の充実が見込まれる。

下市には備前堀や吉田神社など多くの歴史的資源があり、観光資源として上市と一体的な整備を進めることで水戸市としての観光価値を高めることができる。また、単発的なイベント実施によるにぎわい創出だけでなく、市民がいつでも集える場所として定着させることが、観光価値を高めるためには不可欠である。

**■実現による効果等**

- ・回遊性の高いルートができることにより、歴史を再認識しながら市内を巡る機会が増加し、水戸での滞在時間増加などが期待できる。
- ・自転車利用時の環境を整えることにより、自家用車やバス・タクシーなどから自転車での移動を選択する人が増加し、地球環境への負荷が減少する。
- ・生活拠点施設の再整備も行うことで商業の活性化と地域住民の生活基盤が充実する。
- ・再開発後はにぎわい交流人口だけでなく、魅力発信交流拠点としての価値も高まり、拠点機能が充実する。

## ■ 要望事項

### 〔継続要望／西水戸ブロック協議会〕

#### (3) 赤塚駅周辺の活性化

##### ■ 現状や背景

大型ショッピングモールやミオスビルが建つ赤塚駅周辺は、水戸の副都心として整備され、にぎわいが見て取れる。しかし、赤塚駅は、住宅街に隣接する駅としての側面が強く、特に北口では、人通りもまばらで閑散としているので、水戸の副都心として、商業地域のにぎわい創出が必要である。

また、赤塚駅は、水戸駅利用者と属性が異なるため、中心市街地ではなく、あえて赤塚駅周辺での開業を希望する起業家も多いものの、中心市街地に比べ支援施策が少なく、新規開業につながりにくい現状がある。

##### ■ 問題点・課題

中心市街地には空き店舗補助金などの施策が用意されているが、赤塚駅周辺では対象となる補助金制度がなく、創業や店舗移転などの対象エリアになりにくい。

##### ■ 要望内容等

赤塚駅周辺の再生・さらなる発展を遂げるため、中心市街地と同様に空き店舗対策補助金や新規開業者への補助など、にぎわい創出につながる施策を要望したい。

##### ■ 実現による効果等

副都心として整備された赤塚駅周辺の再生、にぎわい創出につながるとともに、水戸市全体の経済活性化にも寄与する。

### 〔新規要望／西部ブロック協議会〕

#### (4) ロマンチックゾーンを活用した地域振興策

##### ■ 現状や背景

西部地区は寺院・神社も多く歴史と文化がある地域であり、私立高等学校3校（常磐大学高等学校(新荘)／茨城高等学校(八幡町)／水戸女子高等学校(上水戸)）、県立高校1校（水戸商業高等学校(新荘)）のほか、茨城大学(文京)も所在する文教地区である。

特に茨城大学からロマンチックゾーン（保和苑・周辺史跡など）、末広町地区に至るエリアには、大学生が多く居住しており、本来であれば学生文化が育つはずの場所である。しかしながら、現況は空き店舗や空き家が目立ち、高齢化する地域コミュニティと学生との関わりも見られない。

##### ■ 問題点・課題

- ・長年、学生エリアでありながら、学生文化が全く育っていない。
- ・学生向けの食堂や居酒屋の経営者が高齢化し、廃業が増加している。
- ・学生が勉強場所としてパブリックスペースを活用する傾向にあるなど、時代の流れに変化が見られる。
- ・空き店舗や空き家が増えることで、周辺環境や景観の悪化、防犯上のリスクも高まる。
- ・空き家の所有者が不明なケースも多く、第3者が容易に利用できない状況にある。

##### ■ 要望内容等

文教地区という特性を生かし、ロマンチックゾーン周辺の空き店舗・空き家を活用した文教地区ならではの地域振興策を実施していただきたい。具体的には、「カフェや多国籍料理店などの開業支援」・「大学生・留学生のチャレンジショップ展開（その後の起業につながる制度整備）」・「空き家を民泊施設として利活用できるための環境整備」などである。

##### ■ 実現による効果等

新たな創業イノベーションを発信することで、創業者や学生が地域の方々との交流、自治体、商店などとも連携を強化し地域の活性化となる。

また、新たな学生文化の場づくりを行う事で、地元の資源を見直し、歴史を知るきっかけにもつながり、魅力ある地域へ発展する。

